

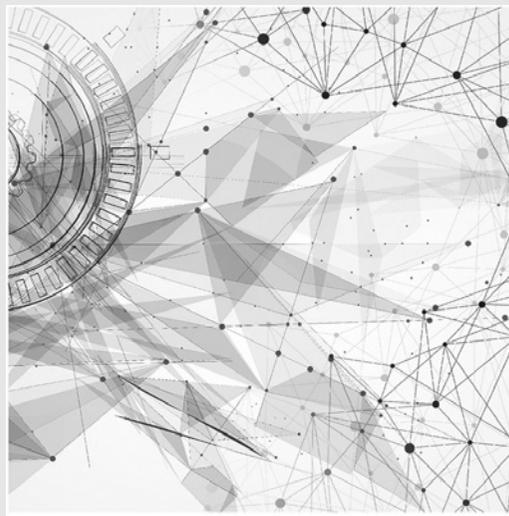
ボンド・ゼロトリプル (資産成長型)

追加型投信／海外／債券

日経新聞掲載名：ゼロトリ成長

2022年10月18日から2023年10月16日まで

第 **4** 期 決算日：2023年10月16日



受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、実質的に海外のハイイールド債券および米国国債先物等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

 **三井住友DSアセットマネジメント**
〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

当期の状況

基準価額(期末)	6,167円
純資産総額(期末)	2,926百万円
騰落率(当期)	-3.5%
分配金合計(当期)	0円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2022年10月18日から2023年10月16日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	6,391円
期末	6,167円 (既払分配金0円(税引前))
騰落率	-3.5% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2022年10月18日から2023年10月16日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的に海外のハイイールド債券および米国国債先物等に投資しました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

下落要因

- F R B (米連邦準備制度理事会)による利上げサイクルの長期化懸念により米国金利が上昇し、ハイイールド債券の価格が下落したこと

1万口当たりの費用明細(2022年10月18日から2023年10月16日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	50円	0.757%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は6,654円です。
(投信会社)	(20)	(0.307)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(28)	(0.428)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.022)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	0	0.006	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(-)	(-)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.005)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.001)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	51	0.763	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

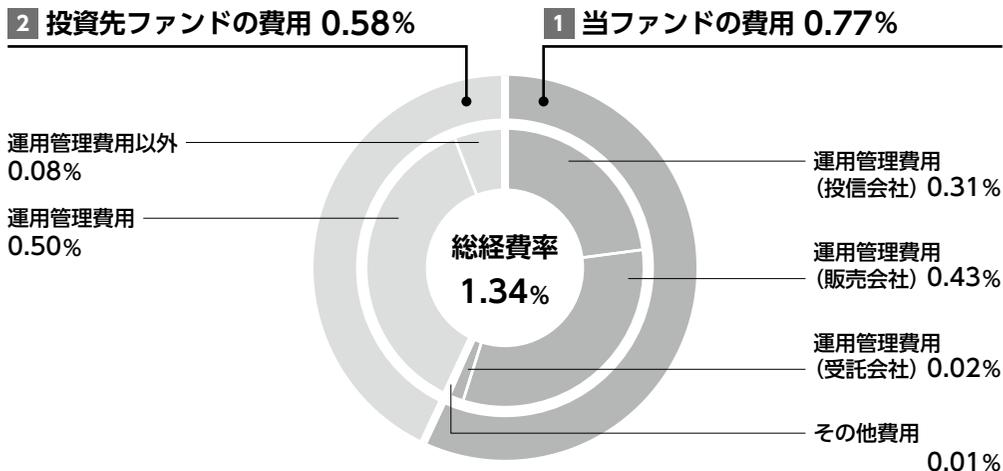
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



項目	比率
総経費率 (1 + 2)	1.34%
1 当ファンドの費用の比率	0.77%
2 投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.50%
2 投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.08%

※**1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算した経費率です。そのため、実際に投資しているシェアクラスの経費率とは大きく異なる場合があります。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.34%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年10月16日から2023年10月16日まで)

当ファンドは、ファンド設定後5年間を経過していないため、設定日(2019年11月6日)以降の情報を記載しています。

最近5年間の推移



		2019.11.6 設定日	2020.10.15 決算日	2021.10.15 決算日	2022.10.17 決算日	2023.10.16 決算日
基準価額	(円)	10,000	9,043	10,812	6,391	6,167
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	-9.6	19.6	-40.9	-3.5
純資産総額	(百万円)	595	4,227	2,907	1,494	2,926

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について(2022年10月18日から2023年10月16日まで)

ハイイールド債券の利回りは低下(価格は上昇)しましたが、米国の長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。為替市場では、円に対して米ドルは概ね横ばい、ユーロは上昇しました。

ハイイールド債券市場

ハイイールド債券市場は上昇しました。

期初から11月にかけて、米国が利上げペースを縮小するとの見方などから主要国金利が低下し、ハイイールド債券市場は上昇しました。12月には、欧米の中央銀行が利上げを継続するとの姿勢の中で主要国の金利が上昇したことで、市場は下落しました。

2023年1月には、金利の低下に加えてリスク選好によるクレジットスプレッド(国債に対する上乘せ金利)が縮小して再び上昇しました。しかし、F R Bの利上げ長期化懸念で金利が上昇し、米銀破綻とその影響を嫌気してクレジットスプレッドが拡大したことなどから、3月中旬にかけて市場は下落しました。

5月後半になると堅調な企業決算や経済指標を受けてスプレッドは徐々に縮小し始め、米国での債務上限問題が一旦解決したことなどを背景に堅調な市場環境が続きました。8月に入ってから、大手格付け会社による米国債格下げ、中国不動産市場に端

を発する中国経済の懸念、世界的な景気の先行き不透明感から一転スプレッドは拡大に転じ、9月以降も米国金利上昇サイクルの長期化懸念によりハイイールド債券市場は下落しました。

期を通じて見ると、米国債利回りは上昇しましたが、スプレッドが縮小してハイイールド債券の利回りは低下し、ハイイールド債券市場は上昇しました。

米国国債市場

米国長期金利は上昇しました。

米国長期金利は、11月初めにかけて一時的に上昇する局面がありました。しかし、12月中旬にかけてF R Bの利上げペースの鈍化観測や金融引き締め自体が景気を冷やすとの見方などを背景に低下しました。12月後半は、欧米の中央銀行が利上げ継続姿勢を示唆したことを背景に米国長期金利は一時上昇したものの、2023年1月末にかけて経済指標の悪化を受けて再度低下に転じました。

2月は堅調な経済指標や金融引き締め

長期化観測から上昇しましたが、3月中旬には米銀破綻やグローバルな金融システム不安を背景に低下しました。金融システム不安が落ち着きを見せると、堅調な経済指標により利上げ再開が懸念され上昇基調となりました。債務上限問題が一旦回避されたことも米国金利を押し上げました。

その後も好調な経済指標やF R Bによる利上げの長期化観測、米国債の格下げ、米国の財政状況の悪化懸念などを背景に、長期金利は一貫して上昇基調を辿りました。

為替市場

米国の金融引き締めペースの減速観測や米金融システムへの不安などを背景に、2023年年初まで米ドルは対円で下落しましたが、その後は米国の金融引き締め長期化観測など背景に米ドルは対円で大きく上昇しました。

ユーロについては、E C B(欧州中央銀行)の金融引き締め姿勢が継続する中、ユーロ圏と日本との金利差からユーロは対円で上昇しました。

ポートフォリオについて(2022年10月18日から2023年10月16日まで)

当ファンド

「パッシム・トラストⅡ-ハイイールドファンズ・ダイナミックリスクコントロール(Bクラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちました。

パッシム・トラストⅡ-ハイイールドファンズ・ダイナミックリスクコントロール(Bクラス、円建て)

11月上旬までハイイールド債券に0%、米国債先物に300%配分していました。11月末にかけてハイイールド債券への配分を200%近辺まで引き上げ、その後も徐々に配

分を増やし、1月末時点では250%程度に達しました。その後は徐々に配分を減らす方向に動きましたが、4月に入って増加基調に転じて月末には280%程度になりました。

5月以降は金利上昇によるハイイールド債券市場の下落を背景に、ハイイールド債券への配分は減少基調となって6月には一時100%台前半になりました。6月中旬になると300%に増加しましたが、その後もハイイールド債券のボラティリティ(価格変動性)が低位安定していたため、9月まで最大配分を維持しました。しかし、10月に入ってからは減少基調に転じました。

マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2022年10月18日から2023年10月16日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2022年10月18日から2023年10月16日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第4期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	672

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し左記の通りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

「パッシブ・トラストⅡ－ハイイールドファンズ・ダイナミックリスクコントロール(Bクラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちます。

パッシブ・トラストⅡ－ハイイールドファンズ・ダイナミックリスクコントロール (Bクラス、円建て)

米国長期金利に関して、今後は下落基調

(米国債先物価格の上昇)を予想しています。クレジット市場に関しては長期に及ぶグローバルな金融引き締めが景気やデフォルト(債務不履行)リスクにどのような影響を与えていくかに加えて地政学リスクについても注視していく必要があると考えます。

マネー・トラスト・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

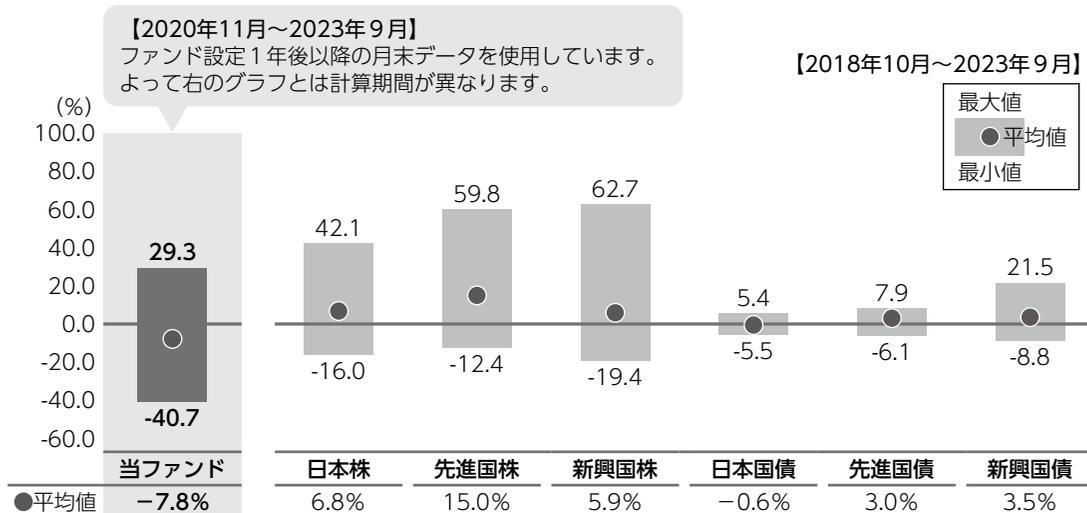
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／債券
信 託 期 間	2019年11月6日から2029年10月15日まで
運 用 方 針	投資信託証券への投資を通じて、実質的に海外のハイイールド債券および米国国債先物等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。
主 要 投 資 対 象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 パッシブ・トラストⅡ－ハイイールドファンズ・ダイナミックリスクコントロール (Bクラス、円建て) 担保付スワップ取引および日本の公社債 マネー・トラスト・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当 ファ ン ド の 運 用 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外のハイイールド債券と米国国債先物を実質的な投資対象とします。 ■ 機動的な投資配分の調整により、ハイイールド債券のリターンの獲得を目指しながら下落リスクの抑制を図ります。 ■ 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外貨建資産への直接投資は行いません。
分 配 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 年1回(原則として毎年10月15日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。 ■ 分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
	ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。(基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	<p>TOPIX (東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。</p>
先進国株	<p>MSCI コクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。</p>
新興国株	<p>MSCI エマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。</p>
日本国債	<p>NOMURA-BPI (国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。</p>
先進国債	<p>FTSE 世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。</p>
新興国債	<p>JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。</p>

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

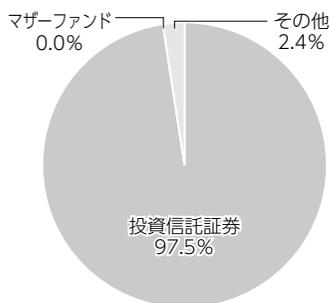
当ファンドの組入資産の内容(2023年10月16日)

組入れファンド等

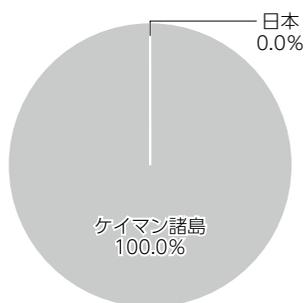
銘柄名	組入比率
パッシム・トラストⅡーハイイールドファンズ・ダイナミックリスクコントロール(Bクラス、円建て)	97.5%
マネー・トラスト・マザーファンド	0.0%
コールローン等、その他	2.4%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

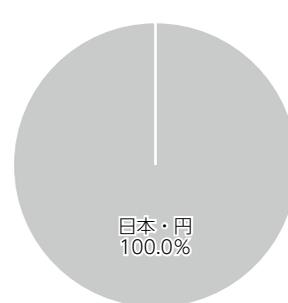
資産別配分(純資産総額比)



国別配分(ポートフォリオ比)



通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第4期末 2023年10月16日
純資産総額 (円)	2,926,054,921
受益権総口数 (口)	4,744,942,492
1万口当たり基準価額 (円)	6,167

※当期における、追加設定元本額は2,647,114,828円、解約元本額は240,654,530円です。

組入上位ファンドの概要

パッシブ・トラストⅡ-ハイイールドファンズ・ダイナミックリスクコントロール(Bクラス、円建て)(2021年10月1日~2022年9月30日)

基準価額の推移以外は投資ファンドを含むシェアクラスで構成された「パッシブ・トラストⅡ-ハイイールドファンズ・ダイナミックリスクコントロール」の情報を記載しています。

基準価額(円建て)の推移



※分配金再投資ベース

組入上位銘柄

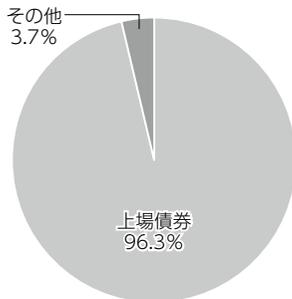
(基準日: 2022年9月30日)

※入手できるデータがないため記載していません。

1万口当たりの費用明細

※単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。

資産別配分(純資産総額比)



※国別配分/通貨別配分については、入手できるデータがないため記載していません。

※当ファンドは上記の他に指数スワップ取引を11.9%行っています。

※基準日は2022年9月30日です。